

独立オーバーサイト結果の概要 (2021年度2Q-22年度1Q)



2022年9月15日

原子力安全監視室 (NSOO)

- 福島第一

(廃棄物管理) 2021年4月、廃棄物保管コンテナのひとつから内部滞留水が排水路へ漏えい。コンテナの保管状態に脆弱性があった。その是正に取り組んでいる間に新規発生廃棄物の受入れが停滞し、結果として工事会社が廃棄物を現場に仮集積する状況が発生（その後、集積物の集約、保管エリアの新規設定、移送計画見直しにより2022年4月に解消）。

(ヒューマンエラー) 2021年9-11月、測定前の雨水タンク水の誤散水(11/29)など、ヒューマンエラーが連続。工事の重要ポイントに関する協力企業との対話などリスク管理が強化され、2022年からは大きなヒューマンエラーは起きていない。

- 福島第二

1F/KKに比べ作業量もリスクも少なく、特段の問題はなかった。

- 柏崎刈羽

(運転) 6/7号クルーの異常時対応パフォーマンス(@シミュレーター)は1年間で着実に上昇、大きなギャップのある班はなかった。

(保全) 2022年3-4月、6号DG-A軸封部からの油漏えいが4件発生。7月、再発防止を施したうえで軸封部確認テストを行ったが、再度油漏えいが発生。

- 柏崎刈羽における一連のPP事案を受け、NSOOは2021年5月より核セキュリティ文化の継続的調査を実施。
- 調査当初には、柏崎刈羽防護部門において、リソースを始めとする不満感が大きい、全社的に防護部門とその他部門との協力関係が希薄、などが見られたが、対話活動や他部門によるバックアップ体制構築に取り組んだことにより、昨年未までに不満感の解消および協力関係の強化が確認された。
- 一方、昨年末にはセキュリティゲートの警備員（委託）において、ルール厳格化に伴う入構者からのクレームなどを起因として同様の傾向となっていることが判明。こちら入構者への周知活動の継続により解消傾向であり、現在では警備員の士気も高い。
- ゲート通過者（社員・協力企業）の警備業務への理解・尊重は、その必要性周知やポスター掲示を目にすることにより高まっているが、更に本質的なリスクの認識、重要性の理解に基づく当たり前の行動となるレベルまで活動の継続が必要。